



～ 夢ひとすじに ～
宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 26 年度 第 2 号
平成 26 年 5 月 1 日 (木) 発行
さいたま市立宮原中学校
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp
ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

「置かれた場所で咲きなさい」

やました せいじ
校長 山下 誠二

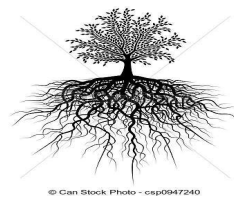
私の家のトイレには、「置かれた場所で咲きなさい」という言葉が飾られています。

「置かれた場所で咲きなさい」の作者、渡辺和子さんは、ノートルダム清心女子大学（岡山）の学長を長年にわたって務められた方です。渡辺さんは、36歳の時に思わぬかたちで大学学長に任命されました。当時、悩んでいたその時、一人の宣教師が、次の短い英詩を手渡してくれたそうです。

Bloom where God has planted you. (神が植えたところで咲きなさい)

「置かれたところこそが、今のあなたの居場所なのだ」と告げるその詩は、未知の土地で見知らぬ人たちに囲まれた慣れない生活に四苦八苦していた渡辺さんを大いに励ましました。「置かれた場に不平不満を持ち、他人の出方で幸せになったり不幸せになったりしては、環境の奴隷でしかない。人間として生まれたからには、どんなところに置かれても、そこで環境の主人公となり自分の花を咲かせようと、決心することができた」と述べています。この本は、環境に負けずしなやかに心穏やかに生きていくため、「置かれた場所に咲く」ための生き方についてまとめた一冊です。その中から印象に残っているいくつかをピックアップしてご紹介します。

結婚しても、就職しても、子育てをしても、「こんなはずじゃなかった」と思うことが、次から次に出てきます。渡辺さんは、『そんな時にも、その状況の中で「咲く」努力をしてほしい』と強調しています。それでもどうしても咲けない時には・・・



© Can Stock Photo - csp0947240

雨風が強い時、日照り続きで咲けない日、そんな時には無理に咲かなくてもいい。
その代わりに、根を下へ下へと降ろして、根を張るのです。

「置かれた場所」は、何も空間的な意味だけではなく、精神や心の部分にも当てはまります。理不尽なこと、不条理な嵐に耐えられるだけのしっかりした土台を作ることが大切なことです。「咲けない日は、根を下へ下へと降ろす」いつか大輪の花を咲かせるためにも、その努力は続けていくことが重要だということです。

間違えることを許すという「ゆとり」

同じ経験をして、自分の感じ方と、相手の感じ方とは、決して同じではありません。お互い別々の人間だから、共通するところもあるけれどもわかりきれないところもあります。渡辺さんは、『人間は決して完全にわかり合えない。だから、どれほど相手を信頼していても、「100%信頼しちゃだめよ、98%にしなさい。あとの2%は相手が間違った時の許しのために取っておきなさい』とアドバイスしています。

人間は完璧ではありません。それなのに100%信頼するから許せなくなる。100%信頼した出会いはかえって壊れやすいと思います。「あなたは私を信頼してくれているけれども、私は神さまじゃないから間違える余地があることを忘れないでね」ということと、「私もあなたをほかの人よりもずっと信頼するけど、あなたは神さまじゃないと私は知っているから、間違ってもいいのよ」ということです。そういう「ゆとり」が、その2%にあるような気がします。「ならぬものはならぬ」という厳しい指導も必要ですが、間違えることを許すという「ゆとり」。それは、教師間にしても教師と生徒、保護者の間にしても大事なことだと思います。

新年度が始まり、新しい環境下に置かれている1年生。1ヶ月経ち、多少疲れが出てきているころだと思います。大人だって新しい環境に慣れるまでは時間がかかります。疲れているときは、背伸びせず、しっかり根を張りましょう。そして、学校生活に慣れ、疲れが取れたときに大きくジャンプできるような準備をしておきましょう。保護者の皆様も子供の成長に一喜一憂せず、誉めることを中心に長い目で見てあげてください。